

令和7年度 昭和中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○ 全国学力・学習状況調査結果

（国語）

学習指導要領の全内容において、全国平均と比較して正答率が高かった。特に思考力・判断力・表現力を問う問題が、全国平均と比較し正答率が特に高かった。「読む力」は全国平均より9.3ポイント高く、日頃の朝読書や、折に触れて読書を推進していることも好影響になっていると思われる。「書く力」は全国平均より10.3ポイント高く、授業で自分の考えを記述する活動を多く取り入れているので、書くことへの抵抗が少ないため無回答率が低かったことも要因と考えられる。

課題としては、漢字や語句の意味など、知識を問われる問題は全国平均と大きな差はなく復習が必要である。また、記述式の問題に関しても、記述してはいるが、条件を満たしたものが欠けていないため、授業で丁寧な解説を行い、添削等の指導を行っていく必要がある。

（数学）

学習指導要領の全内容において、全国平均と比較して15.7ポイント正答率が高かった。中央値も全国より4ポイント高かった。特に、「図形」は全国平均より20.4ポイントも高く、授業においての多様な問題への取り組みと、ICTを活用した可視化した図形学習の効果と考えられる。

課題としては、問題15問中正答数が12～15問の生徒が46.3%である一方、0～4問の生徒が16.3%であり2極化が進んでいるといえる。個に応じた指導をさらに進めていく必要がある。

（理科）

IRTバンドは全国のスコア503を63上回っており、パーセンタイル値も高い生徒が多い。IRTバンドが400を下回る生徒はいなかった。これは学校での学習だけでなく、日々の予習復習と家庭学習の成果が出たものと思われる。

課題としては、問題形式において、短答式や記述式になると無回答率が全国平均より高い傾向にあり、用語などの知識の定着、ならびに文章表記する表現力をつける必要がある。

【今後に向けて】

各教科、見えてきた課題を改善できるよう復習を促したり文章表記の指導を行う等、個別に応じた学習を行っていく。